

2025年7月31日、MIZUBEキャラバン第2回 源流域を見に行こう！奥河内リバートレッキングを実施いたしました！河内長野の豊かな自然を感じ、水を体感して、源流域の水や生きものについて学びます。  
バスで移動し現地には10時30分頃到着しました。



川についての説明をしてくれたのは、イキヨ奥河内自然の代表、あに（谷口さん）です。川の水の大切さや恐ろしさ、事故の予防や川登りの説明などを丁寧に説明してくださいました。

また、（株）海洋生態研究所の片渕さんにもご協力いただき、最初のプログラムでは大きな投網を広げたり、小型定置網で魚を捕獲する体験を行いました。



網の端を全員で持って、同時に落とすことで足元にいる魚などの小型生物を捕獲できます。そうしてつかまえた魚は10数匹でした。すべて、カワムツと呼ばれる魚で、昔はヌマムツという魚と同一視されていましたが、2003年に分けられました。ですが、今回の参加者の小学生たちが生まれる前の話ですので、あまりピンとこなかったようでした。

その後は、各々網を持ち、川に生息する水生生物を探す時間です。川の深み、石の裏、木の根元など様々な場所に隠れている生物を探します。



写真のトンボはミヤマカワトンボです。溪流などにしか生息できないトンボの仲間、自然豊かな河内長野だからこそみられるトンボの仲間です。メスの成虫は1時間ほど水中に潜水して、卵を産むという変わった生態を持っています。



捕まえた川の生きものたちは、配布した下敷きに書いてある生物と見比べて、どの種類であるかを調べました。下敷きには、様々な水質に棲む生き物が記載しており、この河内長野の河川で捕まえた生き物がどんな水質を好むのかが分かります。

カワゲラやトビケラの仲間、ナベブタムシという昆虫が確認されたことから、この川は非常に綺麗な川であること、上流ではとても豊かな環境が残っていることが分かりました。

また、このような水生昆虫たちが食べているのは、森の木々が落とす葉っぱであり、その昆虫たちを魚が食べ、さらに大きな魚が食べ、私たちの生活へと巡ってくるという物質循環と生態系のお話もしました。普段見慣れていない生きものたちの暮らしを実感することで、私たちの生活とリンクさせ、自分事として捉えられるようにするといった体験でした。



その後は、お昼を食べて体を水に慣れさせるためにゆっくりと川に入りました。真夏にもかかわらず、水温はとても冷たく22度程度だそうです。うだるような暑さの中、キンキンに冷えた水の中をゆっくりと進んでいき、リバートレッキングの開始です。



川の中は滑りやすく両手を空けていなければ受け身が取れずとても危ないため、何も持たずに出発しました。途中では、川の流れに身を任せて流れる遊びや、増水時の川の水がどこまで来るかななどのクイズを行いながら進んでいきました。



そして最後は、自分の力で滝を登りました。小さな川ですが、思いの外落差があり、一人の力で登るのは難しかったようですが、全員が楽しみながらリバートレッキングを体験できました。



最後には今日学んだことをおさらいして、リバートレッキングを終了しました。この日学んだ、水の流れの循環や生態系についてのお話は、次回のサポートの体験をもってすべてが繋がるストーリーとなっていて、都市河川の生きものを調べます！

ご協力いただきました、(株)海洋生態研究所片淵様、イキヨ奥河内自然のあに(谷口さん)、ありがとうございました！